（1）　主題名　弱さの克服　〔中学校３－（３)〕

（2）　ねらい　人間には誘惑に負けてしまう弱さや醜さがあるが，それを克服する強さや気高さがあることを感じとらせ，誇りある生き方をめざす態度を育てる。

（3）　資料名　「銀色のシャープペンシル」（出典：読み物資料とその利用３：文部省）

資料の概要

主人公は掃除中のごみの中からシャープペンシルを見つけ，自分のものにしてしまう。そして，理科の時間に使っていたら，本当の持ち主の卓也にとがめられる。その場では自分の物だと嘘をつくが，あとでそっと教室のロッカーに返しておく。しかし，帰宅しても気持ちは晴れない。そこへ卓也からシャープペンシルが見つかったという電話がある。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　自分の経験を確認する。	○「学校で物を落としたり，なくした経験があれば発表しましょう。」 ・筆記用具の紛失は多い ・上履きを隠された ・金銭を盗まれた	○物を大切にする意味から，探した経験も併せて問いかける。窃盗被害等については深入りをしない。
展開	2　資料を読んで，ぼくの心の動きと行動を考える。 3　友人の無責任な発言と行動を考える。 4　自分の弱さに気付いたぼくの気持ちに共感する。	○掃除中にシャープペンシルを見つけたときのぼくはどんな気持ちだったでしょう。 ・持ち主は見つからないだろう ・もらっても平気だろう ○健二に疑われたとき，ぼくはどんな気持ちで「自分で買った」と言ったのでしょう。 ・盗んだと思われたくない ・卓也が落とすからいけない ・本当のことを言う勇気がほしい ○「おまえ卓也のシャープとったのか」という健二の発言をどう思いますか。 ・無責任な発言だ ・ぼくと卓也の気持ちを考えていない ◎電話を切った後，ぼくはどんなことを思ったでしょう。 ・自分は嘘を言ったのに，卓也に謝らせて申し訳ない ・なんだかもやもやする ・黙っておけば問題ないだろう ○卓也の家に向かって歩き出したぼくの気持ちはどんなものだろうか。 ・いつまでもずるい人間ではいられない ・知らん顔をしていたら後悔する	○だれにでも起こりうる状況であることを踏まえて考えさせる。 ○人間は，自分の弱さや醜い行動に対して，うしろめたさや恥ずかしさをもっていることに気付かせる。 ○自分の弱さを克服するには勇気が必要なこと，一度弱さに負けると，元に戻すには大変な勇気が必要なことに気付かせる。 ○健二の軽はずみで第三者的な言動が，ぼくの行動を制限していることに気付かせる。 ○電話を切った後の数行を資料から削除して提示し，読み取りにならないようぼくの心情について主体的に考えさせる。 ○弱さを克服したぼくに共感させる。
終末	5　「心のノート」を読み，今日の授業の感想を書く。	・自分も時々弱いときがあるのでもっと強くなりたい ・確かに正直に生きた方がいい ・主人公は卓也に本当のことを言って謝った，勇気があると思う	○Ｐ.７０～７１「かみしめたい，人間として生きるすばらしさ。」を活用する。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

道端に落ちている百円も，教室に落ちている消しゴムも，拾った場合，小さな子どもの頃には誰もが当然のこととして届ける。しかし，年齢が上がるにつれて，その意識は希薄になり，道端の百円を届ける大人は多くないと思われる。

本資料は，ごく日常的な生活で起こり得る状況が設定してある。生徒には金額が多かろうが少なかろうが悪いことに変わりはないことや，誤りを犯したときには，勇気をもって正していく態度を育てたい。

２　指導過程の工夫

導入では自分が落し物を拾った経験を思い出させることで，資料に深く入れるようにした。

展開は主人公の気持ちの動きと行動を考えることで，実際に起こりそうな状況を自分自身と重ね合わせて考えやすいようにした。

終末は心のノートを活用することで，道徳的価値の自覚を自ら求める時間とした。

３　発問の工夫

展開前半は，主人公の心の動きと行動を考えた。健二に疑われたとき，「自分で買った」と言った主人公の気持ちを考える場面は，自分の心の弱さにも気付かせるよう，十分に考えさせたいところである。また，不用意な「健二の発言」について取りあげた。第三者の無責任な言動が，問題を複雑にするケースは，日常生活にも多々ある。

卓也から電話があって，外に出るまでの数行は資料から削って提示し，主人公の心の動きを自分と重ね合わせて考えさせることとした。

４　生徒の反応

日常生活に結びついた内容であるだけに，生徒の反応は非常によかった。

・やはり自分のじゃない物は届けなければいけない
・自分にも弱いところがある
・健二の発言に関係なくダメなものはダメ
・健二はとったと言わずに，どうしたんだと言えばよかった

ふざけた口調で「自分も主人公のようにシャープペンシルをもらう」という発言があった，また「教卓に置いておく」という発言もあった。どちらも生徒の本音の発言と思われる。

５　授業後のフォローアップ

道徳の授業では，その時間の感想を書かせ，何点かを学級通信や帰りの会で紹介する取組みをしており，みんなの意見を共有することができた。

生徒は自らの弱さに負けて，さまざまなトラブルを起こしたり，わかっていてもできないことがたくさんある。授業での資料や話し合いを振り返るなど日常的に適切な指導をしていきたい。

（砂谷中学校）